（１７）　なばな類（アスパラ菜ほか）

※「なばな類」に掲載した農薬を「なばな」に使用する場合、希釈倍数等、使用時期／回数が異なることがあるので注意する

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
1 黒腐病 *Xanthomonas campestris* pv. *campestris*	1.連作すると多発するので、アブラナ科以外の作物と最低２年輪作する。 2.発病株を除去し、収穫後の残茎葉は集めて土中に埋める。 3.排水を良好にする。 4.黒腐病菌は害虫の加害痕など、傷口から感染するので、害虫の防除を行う。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.苗床では初発から２～３回散布する。	初発から３～４回	M1 24･M1	コサイド３０００ （混）カスミンボルドー
2 軟腐病 *Pectobacterium carotovorum*	1.抵抗性品種を用いる。 2.４～５年輪作にし、イネ科、マメ科の作物を作る。 3.早播きのものは防虫ネットで被覆する。 4.軟腐病菌は害虫の加害痕など、傷口から感染するので、害虫の防除を行う。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.苗床では初発から２～３回散布する。	本葉９～10枚のころから２～３回	M1 M1	コサイド３０００ ヨネポン水和剤
3 白さび病 *Albugo macrospora*	1.排水を良好にし、過湿を避ける。 2.過繁茂しないよう、播種量を適正にする。 3.発病株は早めに抜き取り、圃場外に持ち出し、処分する。 4.雨よけ栽培、施設栽培を行う。	発病前から	U17 21 M1	ピシロックフロアブル ランマンフロアブル ヨネポン水和剤
		発病前から出蕾前	M5	ダコニール１０００
4 べと病 *Peronospora parasitica*	1.排水をよくする。 2.肥料切れに注意する。	発病前から出蕾前	M5	ダコニール１０００
5 白斑病 *Cercosporella brassicae*	1.連作を避ける。 2.肥料切れに注意する。	発病前から出蕾前	M5	ダコニール１０００
6 黒斑病 *Alternaria brassicae*	1.肥料切れに注意する。	発病前から出蕾前	M5	ダコニール１０００
7 根こぶ病 *Plasmodiophora brassicae*	1.苗床は無病な土を使用する。 2.前年発生したところでは連作を避け、アブラナ科以外の作物との３年以上の輪作をする。 3.石灰窒素を施用し、土壌の酸度を６以上に矯正する。 4.圃場の排水を良好にし、低湿地や排水不良地での作付けを避ける。 5.発病株は根部を含めて完全に除去する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.フロンサイド粉剤、ネビジン粉剤、ネビリュウは、水かけ開始は薬剤処理後２か月以降を遵守する。	播種または定植前	29 36 36	フロンサイド粉剤 ネビジン粉剤 ネビリュウ
8 アブラムシ類	1.周辺雑草を防除する。 2.育苗床では防虫ネット（１㎜目合以下）で被覆する。 3.周囲にシルバーテープをはる。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.夏季高温時の苗や軟弱な苗に対しては薬害をじるおそれがあるので、このような苗には使用しない。	播種時	4A 4A	アルバリン粒剤 スタークル粒剤
		発生初期	4A 4A 4A 14	モスピラン顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 パダンＳＧ
9 ヨトウムシ類	1.育苗床では防虫ネット（４㎜目合以下）で被覆する。 2.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。	播種時	1B	カルホス粉剤
		発生初期	15	カスケード乳剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

なばな類（アスパラ菜ほか）

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
10 ハスモンヨトウ	1.育苗床では防虫ネット（4㎜目合以下）で被覆する。 2.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.アファーム乳剤はアオムシ、ヨトウムシにも登録がある。	若齢幼虫期	6	アファーム乳剤
			11A	バシレックス水和剤
			11A	ゼンターリ顆粒水和剤
			11A	デルフィン顆粒水和剤
			11A	フローバックDF
			11A	サブリナフロアブル
			UN	プレオフロアブル
11 ハイマダラノメイガ	1.秋播栽培では早播きしない。 2.育苗床では防虫ネット（2㎜目合以下）で被覆する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.アファーム乳剤はアオムシ、ヨトウムシにも登録がある。 2.８～９月の高温、乾燥時に被害が多い。	発生初期	6	アファーム乳剤
			11A	チューンアップ顆粒水和剤
12 コナガ	1.紫外線反射資材を用いると、成虫の飛来を軽減することができる。 2.育苗床では防虫ネット（2㎜目合以下）で被覆する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.アファーム乳剤はアオムシ、ヨトウムシにも登録がある。 2.夏季高温時の苗や軟弱な苗に対しては薬害をじるおそれがあるので、このような苗には使用しない。	発生初期	3A	アディオン乳剤
			5	ディアナSC
			6	アファーム乳剤
			11A	トアロー水和剤CT
			11A	トアローフロアブルCT
			11A	バシレックス水和剤
			11A	ゼンターリ顆粒水和剤
			11A	デルフィン顆粒水和剤
			11A	エスマルクDF
			11A	フローバックDF
			11A	チューンアップ顆粒水和剤
			11A	サブリナフロアブル
			14	パダンSG
13 ハモグリバエ類	1.周辺雑草を防除する。 2.飛び込み軽減のため防虫ネット（1㎜目合以下）で被覆する。	発生初期	5	ディアナSC
			15	カスケード乳剤
14 キスジノミハムシ	1.育苗床では防虫ネット（0.8mm目合以下）で被覆する。 2.アブラナ科野菜の連作を避ける。 3.湛水処理によって、土壌中の幼虫や蛹を死滅させる。	播種時	3A	フォース粒剤
		発生初期	4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤